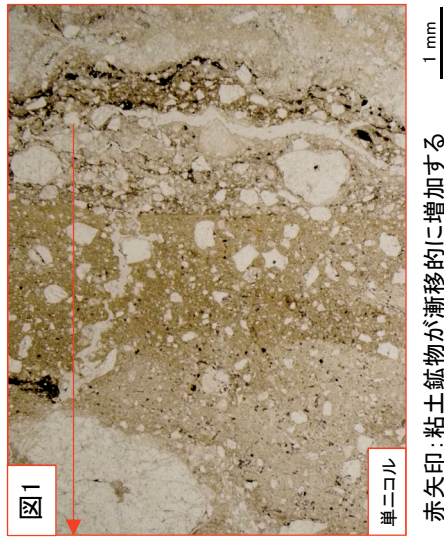
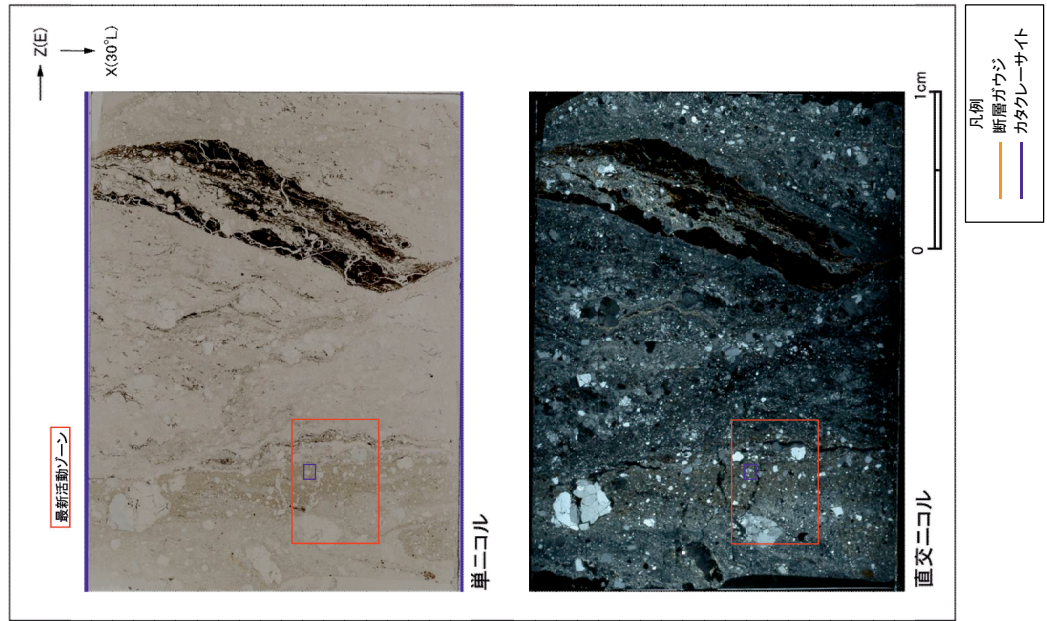
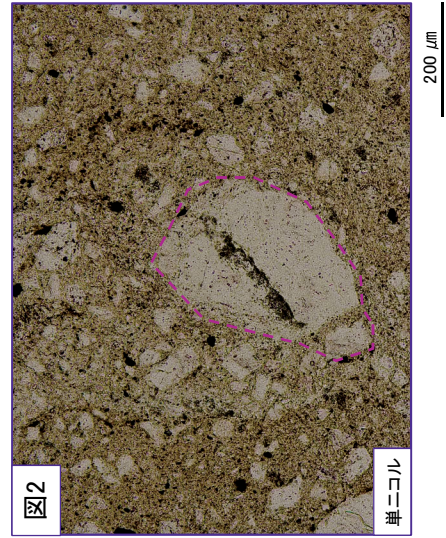
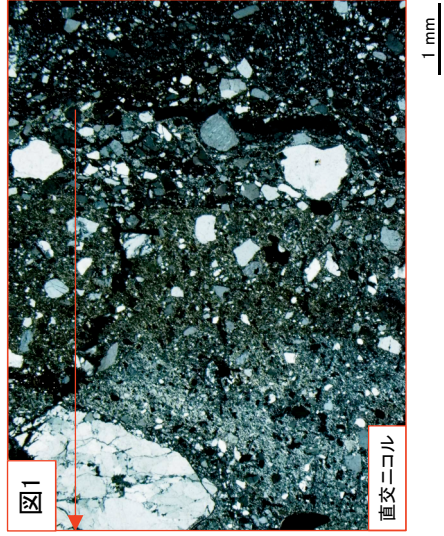


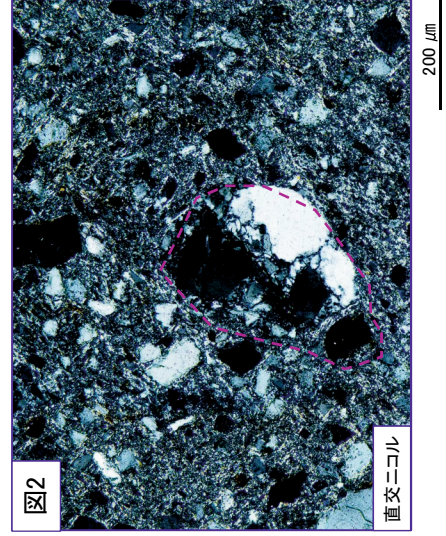
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



赤矢印: 粘土鉱物が漸移的に増加する



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



第7.4.4.264図 (4)

破碎部性状 H27-B-1 深度44.53~44.83m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

(肉眼観察結果 深度44.68m)

- 肉眼観察では、粘土状部の直線性は一部で乏しいが、軟質で、細粒部は連続性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサーサイトの特徴が認められた。

- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部の軟質な細粒部は、その特徴から断層ガウジとして扱うこととした。
 - 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサーサイトであると判断した。
- 肉眼観察で断層ガウジと認定した最新活動ゾーンの細粒部は、薄片観察では岩片主体の基質で構成されている。このため最新活動ゾーンの細粒部は変質したカタクレーサーサイトと評価した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
無	— (1.7)※1	— (無)

*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「—」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

※1：断層ガウジ(0.5cm)と断層角礫(1.2cm)の合算値

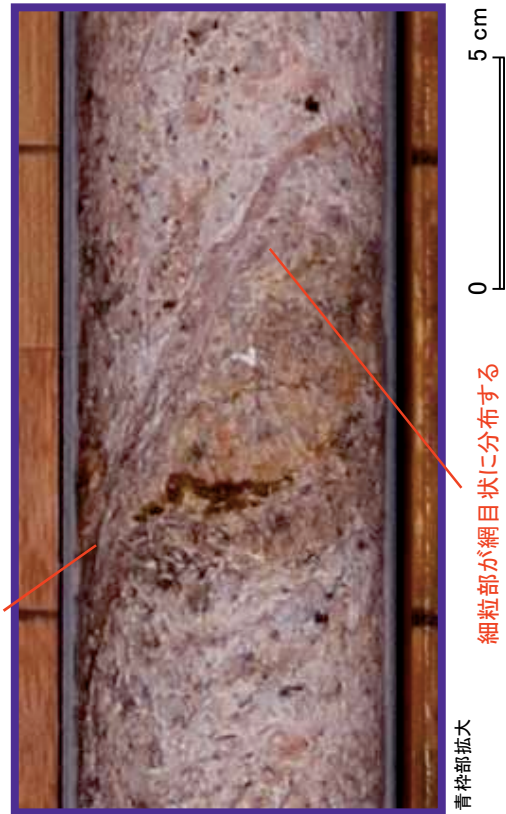
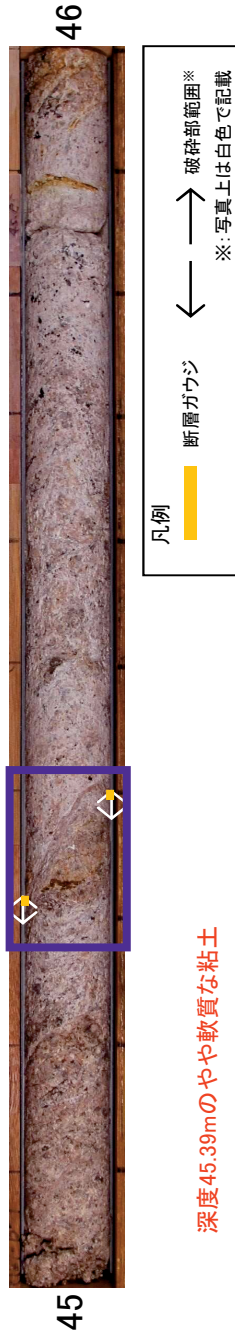
・深度45.36～45.39mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。また、上位の健岩部との境界が漸移的である。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度45.39mの「礫混じり粘土状」と記載の箇所については、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、やや軟質で、粘土の連続性及び直線性が良い。これらことから断層ガウジとして扱うこととした。

ボーリング柱状図

- 45.36～45.39m：破砕部
 - 45.36～45.39m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
- 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。にぶい橙色を呈する。幅5～10mm。
- 45.39m：礫混じり粘土状部 (Hc-2)
- 上下端とも65°で直線的に連続。一部で幅1mmの2本に分岐・収れんする。やや軟質で、径1～2mm石英粒5～10%含む。灰褐色を呈する。幅2mm。

コア写真



第7.4.4.265図 (1) 破砕部性状 H27-B-1 深度45.36～45.39m (肉眼観察による断層岩区分)

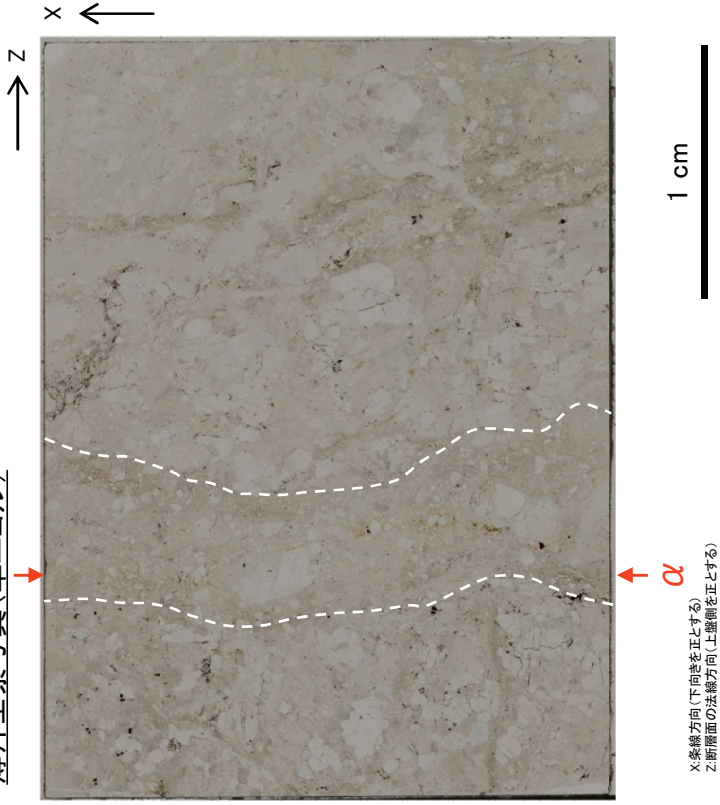
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

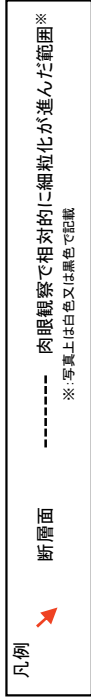
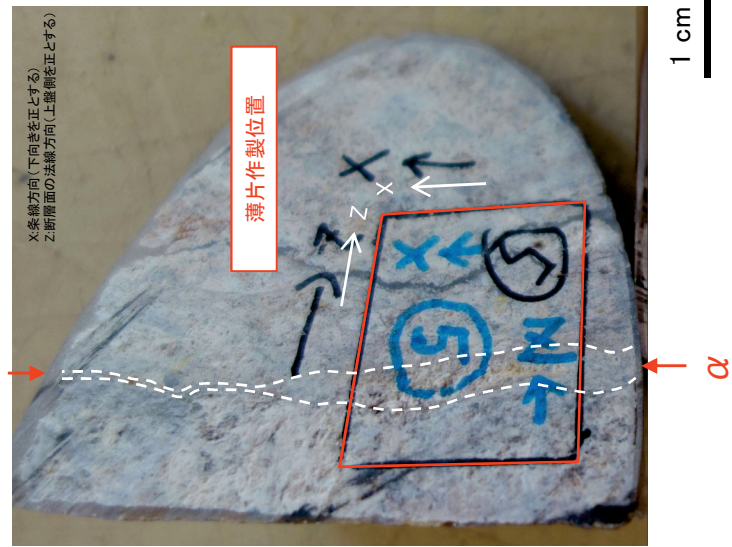
コア写真



薄片全景写真(単ニコル)



薄片作製位置写真

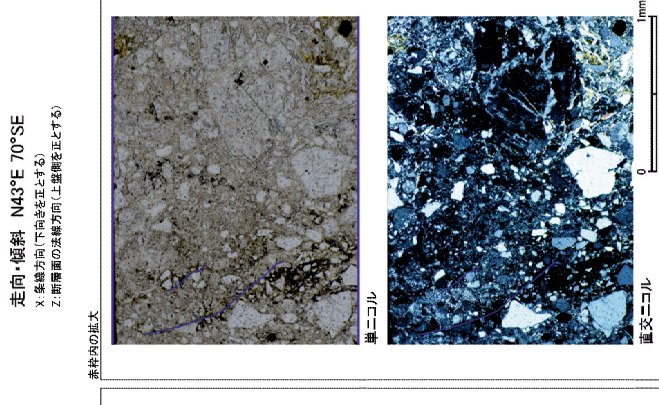
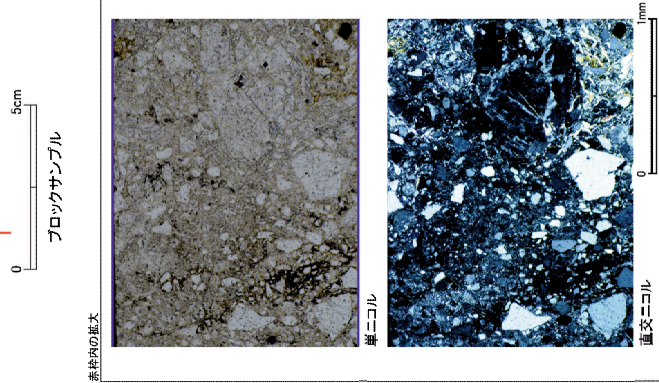
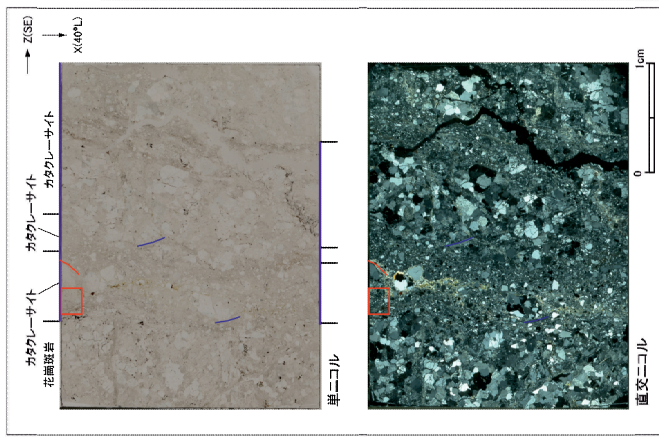
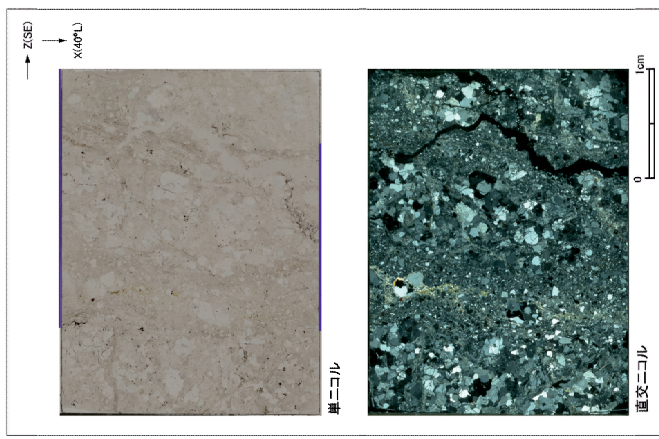
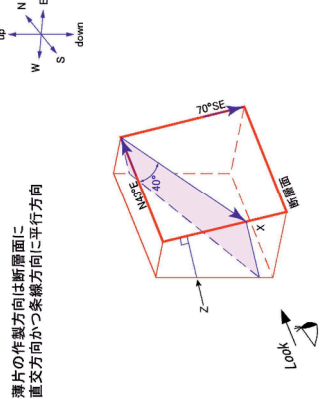
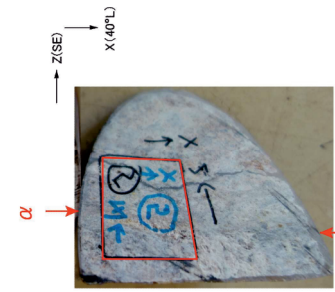
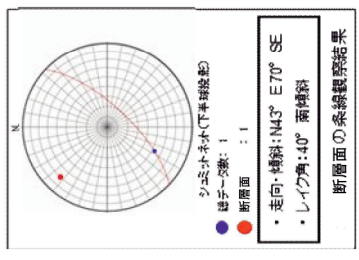


第7. 4. 4. 265図 (2) 破碎部性状 H27-B-1 深度45. 36~45. 39m (薄片作製位置)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

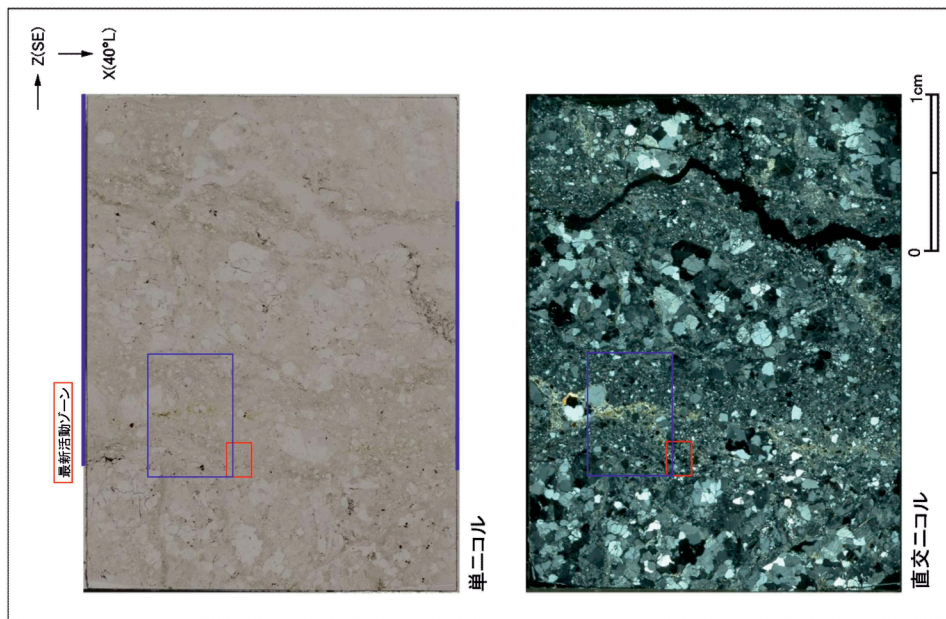
※断層面 α は最新活動面



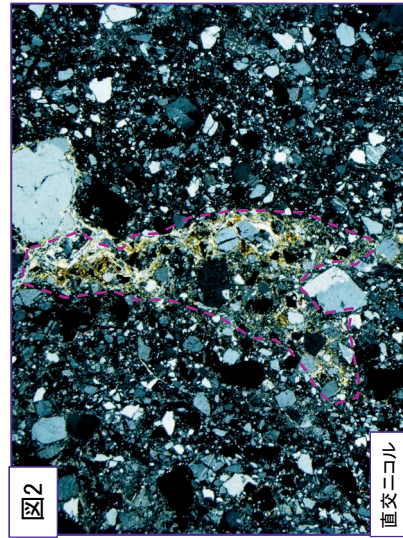
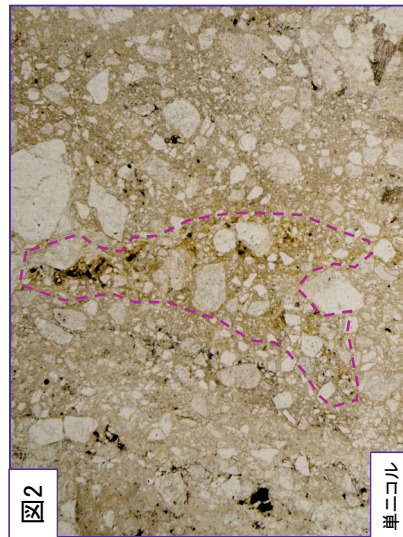
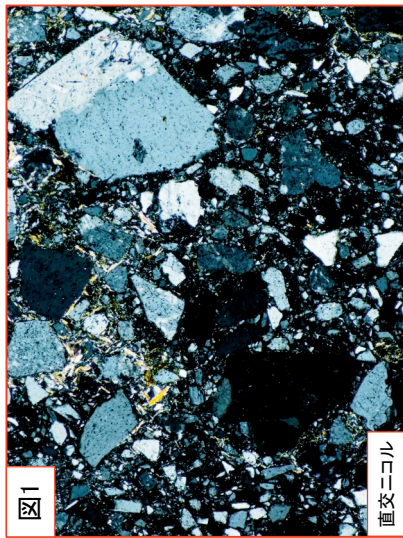
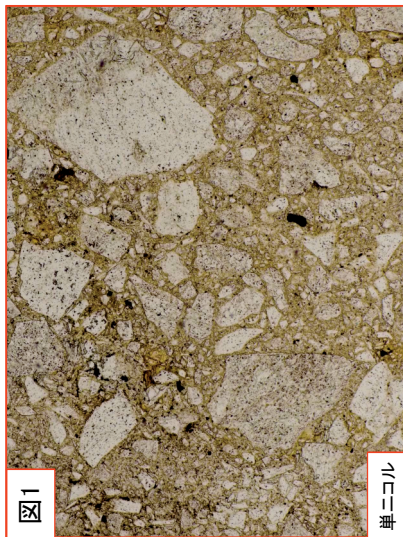
凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト
R1面
P面

第7.4.4.265図 (3) 破砕部性状 H27-B-1 深度45.36~45.39m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 断層面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図2)



凡例
断層カウジ
カタクレーサイト



破線は粘土状部の分布範囲を示す

第7.4.4.265図 (4) 破碎部性状 H27-B-1 深度45.36~45.39m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))